

PEAKS

Leaders' Forum on
Promoting the Evolution of Academia for Knowledge Society

PEAKS活動報告

大学支援フォーラムPEAKS 令和6年度全体会合

2024年12月19日（木）

※本資料の内容の一部および全てについて、無断での複製・転載等などの二次利用を固く禁じます。

令和6年度PEAKS 全体会合 プログラム (予定)

時間	タイトル	
1 13:30-13:40	10分 開会挨拶	
2 13:40-13:47	7分 PEAKS活動報告	PEAKS事務局
3 13:47-13:50	3分 PEAKS幹事会参加決議	佐藤座長
4 13:50-14:20	PEAKS実証事業の報告	
13:50-14:05	15分 大阪大学： 発表7分+質疑応答7分	大阪大学 尾上理事・副学長
14:05-14:20	15分 新潟大学： 発表7分+質疑応答7分	新潟大学 川端理事・副学長
5 14:20-14:50	30分 イェール大学プログラムの報告 発表7分×3回+質疑応答9分	東京農工大学 清水様 東京科学大学 間中様 新潟大学 久間木様
6 14:50-15:55	博士人材を起点としたイノベーションの創出に関するディスカッション	
14:50-15:10	20分 産学人材流動WGアクション・プランの報告： 内容紹介10分+質疑応答・議論10分	佐藤座長
15:10-15:15	5分 ディスカッション説明	PEAKS事務局
15:15-15:30	15分 休憩	
15:30-15:50	20分 ディスカッション15分+全体発表5分	
15:50-15:55	5分 博士人材の活躍に向けた産学官連携プラットフォームの紹介5分	PEAKS事務局
7 15:55-16:00	5分 閉会挨拶	

Agenda

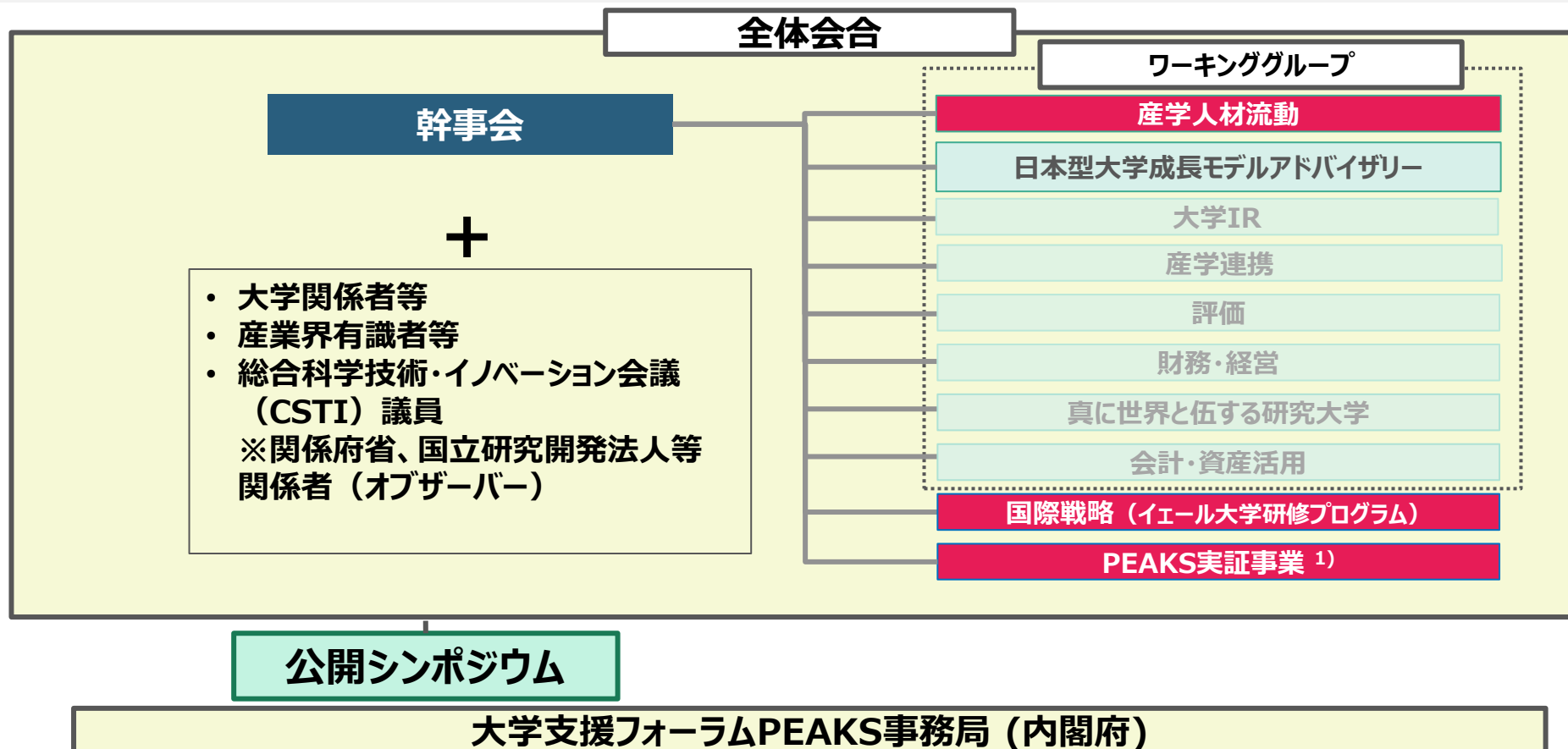
1. 今年度の大学支援フォーラムPEAKSの活動
2. 第3期PEAKS実証事業
3. イェール大学プログラム
4. 産学人材流動WG

大学支援フォーラムPEAKS：活動の全体像

「統合イノベーション戦略（平成30年6月15日閣議決定）」を踏まえ、下記の目的達成に向け、産業界、大学等、政府関係者から成る「**大学支援フォーラムPEAKS***」を令和元年度に創設（内閣府の委託事業として実施）。

- イノベーション創出につながる**好事例を産学関係者で共有**し、産学ともに横展開を進めていく。
- 改革を進めるために現場が必要とする**規制緩和等の政策を関係府省に提案**し、制度改革につなげる。
- 次世代の研究大学の**経営層を育成**する。

* Leaders' Forum on Promoting the Evolution of Academia for Knowledge Society



Note: 1) 日本型大学成長モデルの具体化及びそれを支える大学経営人材の確保・育成に係る実証事業

Agenda

1. 今年度の大学支援フォーラムPEAKSの活動
2. 第3期PEAKS実証事業
3. イェール大学プログラム
4. 産学人材流動WG

第3期PEAKS実証事業：背景と目的

背景

政府では、「地域中核・特色ある研究大学」が、自らの“特色ある強み”を十分に発揮し、社会変革を牽引する取組を強力に支援している。

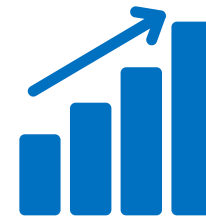
地域中核・特色ある研究大学においては、大学が自身の強みや特色を伸ばす戦略的経営を展開することで、ポテンシャルを抜本的に強化するとともに、大学が拡張されたポテンシャルを社会との協働により最大限に発揮し、主体的に社会貢献に取り組むことで、社会を変革することが期待されている。

また、今年度の大学支援フォーラムPEAKSでは、産学人材流動WGを設置し、「博士人材を起点としたイノベーションの創出」を目的とした産業界・大学の有識者での議論を重ね、①産業界によるアクション、②大学によるアクション、③産学協働でのアクションを取りまとめた。

目的

第3期PEAKS実証事業では、地域中核・特色ある研究大学を目指す大学において、全学戦略の構築について、大学に伴走支援を行うと共に、横展開可能なノウハウを抽出し、普及を図り、日本の研究大学の更なる成長を図る。

<第3PEAKS実証事業で主に扱った全学戦略の観点>



A 地域社会・地域経済に根差した大学における経営戦略



B 博士人材や留学生の活躍促進

第3期PEAKS実証事業 実証大学/実証テーマ（五十音順）

大学名

実証テーマ

熊本大学



地域社会のニーズに即応できる機動的な人事の在り方・制度を実現する財務・経営構造の構築

岐阜大学



地域中核大学における基金充実のための戦略策定

奈良先端科学技術
 大学院大学



博士国際人材としての国内定着を目指す
 戦略的な留学生リクルートと留学生向けキャリア支援

第1期/第2期の実証事業に関しても、伴走後のフォローアップを実施中

第1期

大学名	実証テーマ
 大阪大学 <small>OSAKA UNIVERSITY</small>	IR駆動型研究力強化を軸とした全学的経営マネジメント改革 <ul style="list-style-type: none"> 部局長の経営マネジメント力の引き上げ
 九州大学 <small>KYUSHU UNIVERSITY</small>	九大独自の "University Venture Fund" の組成
 京都大学 <small>KYOTO UNIVERSITY</small>	寄附金募集活動の強化に係る戦略
 東京大学 <small>THE UNIVERSITY OF TOKYO</small>	『『自律的で創造的な大学モデル』の構築』に向けたリカレント教育

大学名	実証テーマ
 東京農工大学 <small>TAT 国立大学法人 東京農工大学 Tokyo University of Agriculture and Technology</small>	東京農工大の経営自律化計画の策定とその実現に向けて -土地建物有効活用を中心に-
 名古屋大学 <small>名古屋大学 NAGOYA UNIVERSITY</small>	大学が大学スタートアップへの直接出資を可能とする大学VCの設立
 立命館大学 <small>立命館大学 RITSUMEIKAN UNIVERSITY</small>	大学が主体となり、ファンド・実証実験を元に、外部の知と内部の知を融合させるモデル

第2期

大学名	実証テーマ
 北海道大学 <small>HOKKAIDO UNIVERSITY</small>	半導体政策に対する大学のあるべき姿のグランドデザイン -本学がとるべき教育・研究・地域連携に関する戦略-
 広島大学 <small>広島大学 HIROSHIMA UNIVERSITY</small>	地域中核大学における新たな経営資源獲得スキーム構築に資する実証事業 - Town & Gown構想との連動による「知のアセット」経営資源化の加速-
 新潟大学 <small>NIIGATA UNIVERSITY</small>	エキスパート人材の拡大・組織化による中核拠点研究大学の機能強化 (University Administrator制度)

▶ **本日は
2大学より活動報告**

Agenda

1. 今年度の大学支援フォーラムPEAKSの活動
2. 第3期PEAKS実証事業
3. イェール大学プログラム
4. 産学人材流動WG

研究大学の次世代経営層を育成する イェール大学研修プログラム

国内外の**大学経営に対する理解**を深め、**産学官の人材ネットワーク**を形成することを目的として、イェール大学と共同で開発したオリジナルプログラムを実施予定。
イェール大学経営陣・教職員とのディスカッションを通じて経営とその理念を学ぶ。

国内事前研修

日時 2024年10月19日（土）13:00～18:00（対面形式）
概要 日本、米国の高等教育における最新動向の理解を深め、講義・議論を通じたネットワークを構築

イェール現地研修

日程 2024年11月3日～11月9日の期間にて実施
概要 イェール大学現地における視察および講義と議論を実施。（下表参照）

最終振り返り研修

日程 2024年12月14日（土）15:00～18:00（ハイブリッド形式）
概要 イェール現地研修を踏まえ、受講者からの個人発表及び上山CSTI議員との意見交換を実施

	コンテンツ
1	米国の研究大学の組織とガバナンス
2	イェール大学とリベラルアーツ&科学教育
3	大学の教員マネジメントとリーダーシップ
4	大学の戦略的な財政政策
5	イェールにおける学生のアントレプレナーシップ
6	博士課程のキャリア戦略開発
7	大学経営におけるデータ利活用

	コンテンツ
8	卒業生との関係構築と関係強化
9	AIと教育
10	イノベーションを促進し支援する大学の戦略
11	産学連携
12	アカデミック・プライオリティの設定
13	データ・インテンシブ・ソーシャル・サイエンス
14	各種キャンパスツアー

2024年度は、**国公私大教職員22名、国立研究所職員3名、省庁1名**が参加。

現地研修の様子



(左) Maurie McInnis イェール大学 学長
(右) 上山 隆大常勤議員 (内閣府科学技術・イノベーション会議)



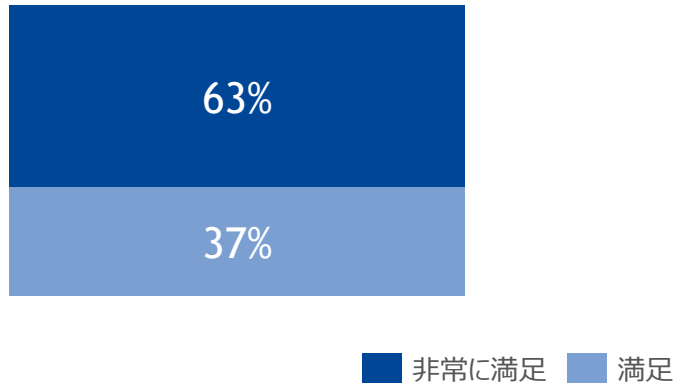
(写真中央) Peter Salovey元イェール大学学長



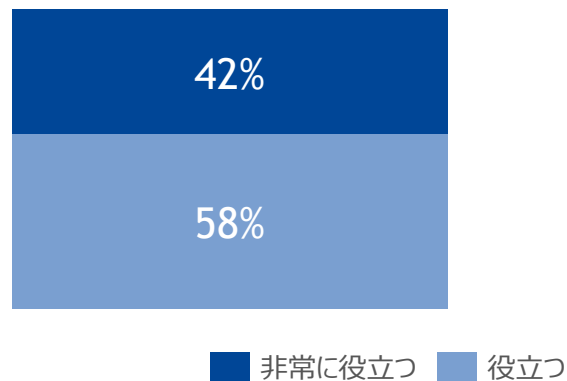
(参考) イェール大学現地研修:参加者の声

現地研修の満足度・有用度

Q.イェール大学現地研修の満足度はどうだったか



Q.現地研修での学びは業務・組織改革に役立てられそうか



参加者の声

- “大学のミッションに基づいた戦略立案と、その実行を可能とする財力と財務の考え方は、大学本部だけでなく、各局や部門においても学ぶ必要があると思いました
- “イェール大学の構成員（教職員、学生）のengagementを強く感じた。自組織に果たしてengagementはあるか？自問できる機会になり、今後の自分の気持ちのあり方や生き方に非常に参考になると思っている
- “現地にて、講義だけでなく実際に現場を見ることでより深く理解が進んだ。また、何よりも異なる大学のメンバーによるネットワークができたことが大きい。
- “事前学習教材からは歴史的な観点を交えながら、非常に多くの知識や考え方を吸収することができ、事前講習会において参加メンバーや上山先生と議論をする機会があったからこそ、現地研修での学びが充実したものになったと思う
- “現地でのイェール大学の方々からの講演はもちろんのこと、他大学の執行部の先生方や運営職員の方々、内閣府、BCGの方々とも多くの議論をすることができ、大変刺激的で、また大学運営とは何かということを理解することができた

Agenda

1. 今年度の大学支援フォーラムPEAKSの活動
2. 第3期PEAKS実証事業
3. イェール大学プログラム
4. 産学人材流動WG

産学人材流動WG

博士人材を起点としたイノベーションの創出に向けたアクション・プランを策定

WG設置趣旨

- 我が国が今後も継続的にイノベーションを創出していくためには、**社会課題の解決や価値創造を先導する資質・能力を持った多様な人材が、産業界と大学を行き来し、活躍することが不可欠。**
- 現状では、産業界が博士人材を十分に活用できていない、産業界が求める人材を大学で十分に育成できていない、といった課題が見られる。



- 産学双方の有識者を招いて、**相互理解を深めつつ、産学間における人材流動性の強化に向けた、各企業や大学での具体的なアクションに繋がる方策を検討。**

WGにおける成果

- **企業、大学、両者の協働によるアクションのリストを取りまとめるとともに、政府での検討を期待する事柄についても提言した。**
- **本WG参加企業・大学がアクション・プランを実行に移すことで、今後、活動がPEAKS全体、また日本全国の企業・大学に展開することを目指す。**



産学人材流動WGの委員（五十音順）

ご氏名	ご所属/経歴
遠藤 信博	日本電気株式会社 特別顧問
小路 明善	アサヒグループホールディングス株式会社 取締役会長 兼 取締役会議長
田中 愛治	学校法人早稲田大学 総長
千葉 一裕	国立大学法人東京農工大学 学長
永野 毅	東京海上ホールディングス株式会社 取締役会長
東原 敏昭	株式会社日立製作所 取締役会長 代表執行役
寶金 清博	国立大学法人北海道大学 総長
湊 長博	国立大学法人京都大学 総長
渡邊 光一郎	第一生命保険株式会社 特別顧問
主査 佐藤 康博	株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問
オブザーバー 長谷川 知子	一般社団法人日本経済団体連合会 常務理事